

式辞

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

また、今日まで卒業生の皆さんを支え、見守ってこられたご父母をはじめとする関係者の皆様に対しても、お祝いを申し上げます。

花の蕾も日増しにふくらみ、開花の時節をまさに迎えようとしている本日、ご来賓各位のご列席のもと、卒業生の皆さんと卒業の式を挙行できますことは、私たち教職員にとっても大きな喜びであります。

さて去る三月十一日には、東日本大震災から一年目を迎え、各地で鎮魂と追悼の式典がおこなわれました。行方不明や関連死を含め二万人以上の方がこの大震災によって尊い命を失いました。また現在でも三十四万人以上の方が避難生活を余儀なくされています。本学の学生やご両親の中には犠牲となられた方はありませんでしたが、住居の損壊などの被害にあわれた方は少なくありません。また、昨年度の卒業式は、余震の危険等を考慮して、中止とせざるをえませんでした。

東日本大震災と福島原子力発電所の事故からの復興は始まったばかりで、未だ大きな課題をかかえています。しかし、そうしたなかであって、希望の光はさまざまなかたちで見えています。

そのひとつとして、日本経済新聞社が本年三月初旬に大学生・高校生に対して行い、三月十一日の朝刊紙面で紹介したアンケートの結果をご紹介します。このアンケートによると、大学生・高校生の多くが「震災は自分の進路についての考え方に影響を与えた」と答え、その影響として七割以上の大学生・高校生が「人のために役立ちたいと思った」ことをあげています。

私は、若い世代の人たちが、自分の進路に関して人のために役立つことを強く意識するようになったことは、大変意義のあることだと思います。卒業生の皆さんも、是非このことを自分自身の問題として受け止めて下さい。

では、人のために役立つとはどのようなことなのでしょう。東日本大震災で被災された方々のように苦しい状況にある人々を、ボランティア活動などで支えることがこれに含まれるのは、いうまでもありません。しかしこのような直接的支援だけでなく、職場や、地域や、家族などにおいて日々行う活動や努力のひとつひとつを通じて、私達は互いに人のために役立っています。私は、社会人として生きるということは、この役割を責任をもって果たすことであると考えます。そして、自らの人格や能力の向上を目指す努力を今後も怠らず、この役割をしっかりと担いうる社会人となることを、皆さんに期待したいと思います。

皆さんがこれから社会人としての道を歩まれるうえで、武蔵大学での経験や、修得した知識、能力はきっと皆さんを支えてくれることでしょう。特に、本学では、その前身である旧制武蔵高等学校以来、「建学の三理想」のひとつとして「自ら調べ、自ら考える力ある人物」をかかげ、主体的な思考力をもつ人物の育成を目指してきました。ゼミナールや演習を重視した教育を行っているのは、このために他なりません。情報があふれる今の社会では、必要で正確な情報を収集し、これを的確に分析する能力、すなわち「自ら調べる力」が求められます。また、変化が激しく、新たな課題が日々生まれる今の社会では、

先人から継承した知識をたんに受け継ぐのではなく、新たな答えを生み出す能力、すなわち「自ら考える力」が求められます。皆さんは、ゼミナールや演習など本学での勉学を通じて、こうした力を培ってきたはずで、これを基礎とし、社会に出てからも「自ら調べ、自ら考える力」をさらに向上させるよう努めて下さい。

このことに加えて、私は、卒業生の皆さんにさらに二つのことを申し上げたいと思います。

その第一は、「自ら行動する力」をもつ人物であってほしいということです。「調べ」「学ぶ」ことは、行動と結びついてはじめて意味をもちます。また、自ら行動するという場合の「自ら」は、行動の自発性、主体性を意味していますが、決して独りよがりということではありません。社会における私たちの行動は、他の人々のともに働く「協働」ですから、ともに行動する他の人々の考えを理解し、自分の考えを伝えるコミュニケーション力や、チームのなかで今自分が果たすべき役割は何かを的確に把握する力があってはじめて、自ら行動する力を発揮することができます。

第二に、「自らを調べ、自らを考える力」をもってほしいと思います。自らを調べるとは、自己を点検することです。また自らを考えるとは、客観的な立場から自分自身を冷静に分析することです。物事が順調に進んでいるときこそ、有頂天となって我を忘れることなく、自らを冷静にとらえることが必要です。また私たちは、逆境にあるときには、苦悩のあまり茫然として自らを失いがちです。そうしたときこそ、自分自身を客観的に見直してみるべきでしょう。そうすることで苦しみも和らぎ、逆境を抜け出す道もみえてくるはずで、

本日、この学び舎を巣立っていかれる皆さんの未来は希望に輝いています。ただし、それは、強い意志と絶え間ない努力によって希望を実現する可能性が大きく開かれているからです。意志や努力なしに安穏な日々が保証されているわけではありません。前を向き、高い目標を目指してこれからの人生を雄々しく進んで行って下さい。

皆さんは、学生から同窓生へと立場は変わりますが、これからも武蔵ファミリーの一員であることに変わりありません。社会では皆さんの多くの先輩が活躍しており、同窓会の活動も活発に行われています。同窓生の絆はこれからの皆さんにとって貴重な財産ですので、これを大切にして下さい。そして、出来るだけ多くの機会にこの大学のキャンパスを訪れ、懐かしい皆さんの顔を後輩や教職員に見せて下さい。

最後に、改めて、卒業おめでとう。

以上をもって私からの式辞と致します。

平成二十四年三月二十二日

武蔵大学長 清水 敦